

ローマ字を書く(あさって) 正答率 57.1%

(例) [いぬ] ⇨ inu

1 [りんご] ⇨ _____

2 [あさって] ⇨ _____

3 hyaku ⇨ [_____]

一次の1と2の言葉を、例のように、ローマ字
でいねいに書きましょう。また、3のローマ
字は、ひらがなでいねいに書きましょう。

解答類型		割合 (%)
○	「asatte」と解答しているもの	57.1
×	上記以外の解答	36.4
—	無解答	6.5

※全国の平均正答率は41.8%

正答率は、57.1%であり、課題が見られる。全国学力・学習状況調査の報告書によると、誤答には「asaate」や「assate」と書いているものが見られたと述べられており、促音の表記について正しく理解していない児童がいることが考えられる。

その他のローマ字の問題は「りんご」の書きの正答率が70.0%、「hyaku」の読みの正答率が68.2%であった。

なお、ローマ字の読み書きは、全ての問題で全国の平均正答率よりも15ポイント以上高くなっており、広島県は全国に比べて定着率は高いと言える。

内容の系統

伝国…伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

第3・4学年

伝国ウ(ア)

第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。

提案

ローマ字を読んだり書いたりする必要性を感じさせるとともに、ローマ字の規則性を押さえ、日常生活の中で継続的に指導しましょう。

- 今年度の「基礎・基本」定着状況調査でも、ローマ字については、濁音や「ん」の表記について課題が見られたため、そちらでも指導改善のポイントを示していますが、まず大切なのは、児童にローマ字を学ぶ必然性を感じさせることです。ローマ字の指導については、以前は第4学年であったものを、現行学習指導要領においては、第3学年の指導事項としています。これは情報機器の活用や他教科との関連を考慮した結果ですが、近年はそれだけローマ字が児童にとって身近に、そして必要性の高いものになっていることの表れといえます。
- 指導の際には、日本語の音節が主に子音と母音の組み合わせであることを踏まえながら、ローマ字の規則性をしっかりと押さえることが大切です。そして、着実な習得に向け、日常生活の中で、意図的、継続的にローマ字の読み書きを指導していきましょう。